



学校だより

調布市立調和小学校
令和7年1月8日(水)
校長 武田 美穂子

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

本年もどうぞよろしく願いたします。

校長 武田 美穂子

一段と空気が冷たく感じる今日この頃となりました。そのような中を元気に登校する子供たちの姿を見ると、心がほっとあたたかくなる第3学期始業式の朝でした。あらためまして、皆様つつがなく新年をお迎えになったこと、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様方のひとかたならぬご支援・ご協力いただき深く感謝いたしております。

さて、第3学期のスタートにあたって本日の始業式では、以下の内容を子供たちに話すとともに確認をしました。4月の始業式でも話をした「3つの約束」についてです。4月の頃と比べて自分はどんな自分になっているか、これからどのようになりたいか、なっていきたいか等といった未来予想図をもつことについて触れています。その際に「3つの約束」を思い出してほしいと伝えました。子供たちへは「3つの約束」を次のように伝えています。

- 自分の幸せは他人の不幸の上に成り立っていませんか？
- 自分や他人の心と体を大切にしていますか？
- 注意・助言されたことを振り返って、がんばっていますか？

ぜひご家庭でも、「3つの約束」についてお子様と話題にいただければ幸いです。



外壁改修工事もまもなく終了します

そしてもう一つは「夢を広げる」ということです。年度末までの登校日は約50日となります。学期や学年、進級や卒業・入学など人生には何度かその時その時の分岐点があります。その時に迷うことなく、新しい世界へ飛び込んでほしい願う反面、その時の迷いや悩み、「今・ここ」にいることにおびえないでほしいということです。

年明けの新聞記事にもありましたが、昨今「ネガティブ・ケイパビリティ(Negative capability)」という言葉がじわじわと広がってきています。簡単に答えが出ないことにも性急に事実の解明や理由を求めず、不確かさや懐疑の中にあることができる能力、あるいは、どうしても対処できない状況に耐える能力を指すそうです。作家の^{ははきぎ ほうせい}帯木蓬生さんも著書の中において「正解のない問題を抱え続ける能力、十分な成果を得られないことに耐え続ける力」として『ネガティブ・ケイパビリティ』が強く求められている」と答えの出ない事態に耐える力の一つとして挙げられています。

今の時代、ある課題に対してすぐに考えて答えを出したり、すぐに結論を出したり、方策を提案したりといった能力が求められがちです。その時代に文字や数字、図形などの記号によって何かしら一貫した法則を見いだそうとする、自分で立てた仮説に沿って物事を観察したり、検証したりするといった思考の過程において、不可解な事柄を無視したり、拙速に答えを出したりせず、「あれ?」「わからない」「どうしよう」といった、その宙ぶらりんな状態の自分自身を観察し続けることも、時として大切な時間なのではないでしょうか。自分なりの「問いと答え」に対して、見通しを先に与えるのではなく、時間がかかったり、うまくいかなかったりといった解決するために必要なことを考えたり、悩んだりする時間も深い学びへのいざないとなる大切な時間です。

それらは両端の学びに感じるかもしれませんが、私たちは物事に対して地道にじっくり「わかって」と努力をする子供たちをいつも心から応援しています。「答えがない」「答えることができない」「わからない」状態は人生においては多々あることではないでしょうか。それでも、その場所に居続け、考え続けようとする勇



気、わかってとするその努力、自分を見つめ直す誠実さをもったすてきな調和小学校児童631名となるよう、第3学期も調和小学校教職員一同全力で応援して参ります。そして、この調和小学校にかかわるすべての子供と大人で「響き合う、私とあなたと調和小」となるよう一丸となって心を尽くして参ります。皆様、本年も変わらぬご支援ご協力をお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしく願いたします。